

令和6年度 いわき市医療センター看護専門学校 学校運営評価

1 教職員による学校運営評価

1) 評価表

評価のカテゴリーは9領域（48項目）です。各項目は、「5；できている～1；できていない」の5段階で評価しました。

2) 全体の結果

I～Ⅸのカテゴリー別平均の推移は図1の通りです。平均の高い順にみると「Ⅷ広報」（4.97）、「Ⅸ地域との連携」（4.94）、「Ⅴ管理運営・財政」（4.78）、「Ⅳ学生生活への支援」（4.76）、「Ⅲ入学・卒業対策」（4.70）、「Ⅶ教職員の育成」（4.65）、「Ⅱ教育課程・教育活動」（4.64）、「Ⅰ学校経営」（4.62）の順でした。平均点が一番低いカテゴリーは、「Ⅵ施設設備」（4.49）でした。すべてのカテゴリーで4以上となっております。

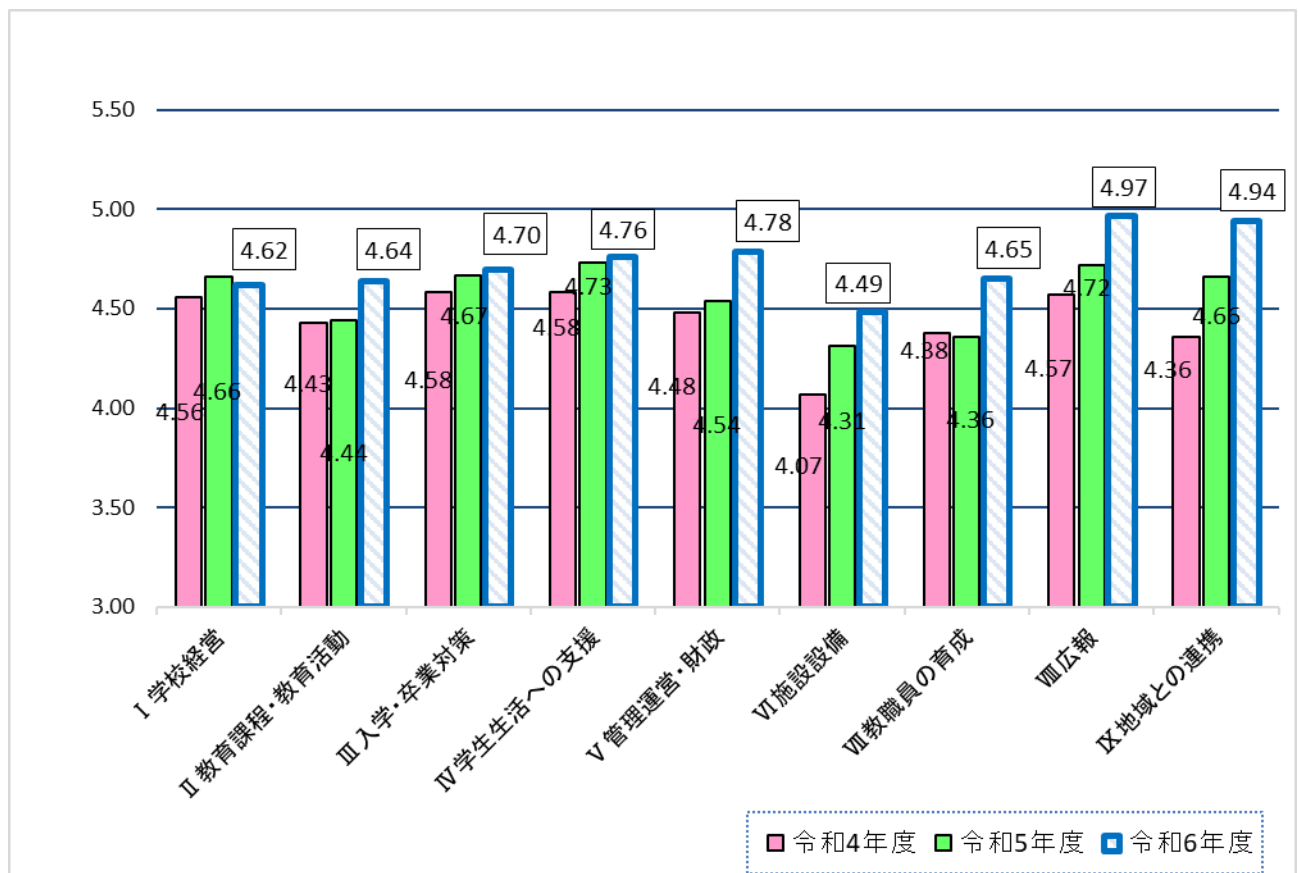


図1 教職員による学校運営評価カテゴリー別平均

3) 全学年改正カリキュラム（教育課程）での運用

地域と連携し地域から学ぶ授業や、実践的な学びをする基礎看護技術の授業、多職種連携を強化した授業、各看護学を横断し看護実践につなぐ授業を行いました。電子テキストやシミュレーションモデルを活用するなど、より実践的な授業を行っています。臨地実習をイメージしたシミュレーション教育では、考える力や多職種と連携する力を身につけ、保健・医療・福祉システムの中で活躍できる看護師をめざして学習しています。また、学生が主体的に課題に取り組む授業や、学生自身が外部の方と調整して行なう授業などでは、状況を考えながら対応する力を養っています。今年

度学生は、地域の強みと課題をとらえて、市内の集会所 7 か所で健康教室も開催しました。今後も「つながる力」などチームで協働する力を身につけられるよう支援していきます。

4) 地域と連携した授業やボランティア活動

令和 4 年度から、地域の資源を教育内容に取り入れたカリキュラムになっています。いわき市 10 地区の区長さんや民生委員の方を中心に 1 年生の地区踏査にご協力いただき、そのつながりから学生が地域の活動に参加協力しています。

ボランティア活動について、令和 4 年度からボランティア団体への登録を行い、ボランティア担当教員を配置しています。授業の一環としてのボランティア活動への参加や、ボランティア依頼の際は、情報の掲示等をして、参加できるようにしています。今年度は学生の提案でボランティアクラブを立ち上げ、活動を開始しました。学生が主体的に参加し、地域との関わりもより深まりました。

5) 感染対策

新型コロナウイルス感染症対策については、いわき市医療センター感染管理室に相談しながら、感染対策に努めています。

儀式や学校見学会、文化祭などは、基本的な感染対策を講じながらも、ほぼコロナ禍以前の状況に戻りつつあります。文化祭は、物品販売やキッチンカーなど地域の方々も参加して、今年度はバザーも開催し、各学年の企画や研究発表などもあり、多くの皆様にご来場いただきました。感染対策として、オンライン授業も継続しています。

6) 看護師国家試験合格率 100%

今年度、国家試験合格率は 100%でした。臨地実習は実習施設のご協力をいただきながらほぼ予定通りに実施でき、患者さんや臨床指導者より多くの学びをいただきました。また、教員は学生個々の学習状況を分析し、指導に生かしています。

学年担当教員による定期的な面接に加えて、スクールカウンセラーによるカウンセリング、学生間交流グループ活動による学年間交流など、教職員全員で学生生活を心身ともに支え学習支援に取り組んでいます。

7) 教職員の育成

人間総合科学大学からの看護教員養成研修の教育実習に協力し、本校で教育実習を行いました。また、研究授業を実施し、教員間でより良い授業になるように検討しました。研修報告会も計画的に実施し、教員間で活発に意見交換し、研修内容を共有しました。福島県看護協会主催の「専任教員と臨地実習指導者の交流集会」では当校教員が講師を務め、福島県看護協会学会委員長やいわき支部教育委員長としての協力や、福島県看護協会主催の福島県実習指導者講習会の講師も行いました。

【学会発表】

- 1) 黒田 史彦：地域包括ケア時代に看護学教育と地域をつなぎ、仲間とつながる社会貢献活動、第 34 回日本看護学教育学会 2024 年。
- 2) 黒田 史彦：看護基礎教育と卒後教育の繋がりを考える vol.5 一緒に考えて語ろう！臨床判断能力育成と思考発話、第 34 回日本看護学教育学会 2024 年。

2 学校生活に対する卒業時アンケート

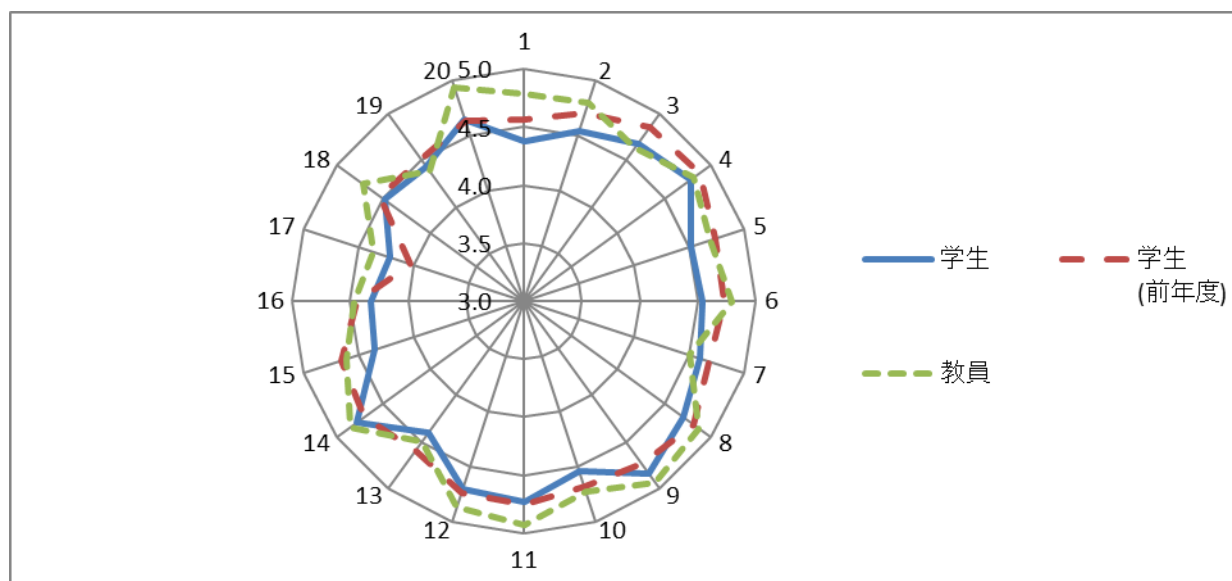


図2 学校生活に関するアンケートー教職員の学校運営評価との対比ー ※項目内容は最後尾に記載

【結果のまとめ】20項目の平均は4.6（R4年度4.3、R5年度4.6）でした。前年度と比較し得点が高い項目は9、14、17、同点の項目は12、18、20でした。それ以外の項目は前年度より低い得点でした。3年間の学校生活に対する満足度は4.0以上と高く、ほとんどの学生は学校生活に満足していると考えます。

平均が低かった項目は、Ⅵ施設設備の「バリアフリー構造」4.2でした。例年低い項目ではありますが、5年間でみると1番高い得点となっています。高齢者や視覚障がい者体験でスロープや段差がない環境を体験する機会もあり、バリアフリーの捉えが共通認識できたのではないかと考えます。次に低かった項目は、Ⅵ施設設備の「校舎を定期的に点検、適正な整備」4.3でした。令和7年度はトイレの洋式化や雨漏り箇所の一部を修繕する予定になっています。今後も点検を継続し適正に整備を行っていきたいと考えます。

Ⅱ教育課程・教育活動は、全項目において昨年度より低い得点となりました。新カリキュラムで、基礎看護技術の習得方法や地域で生活する人々を支援するための授業内容など、より主体性を育む内容に変更となりました。教員は試行錯誤し工夫しながら授業を行いました。しかし、学生は新カリキュラムで前年度までとは違うということが強調されて学校生活を送ったことが考えられます。学生は新しい取り組みが多く、先輩からのアドバイスを学校生活に生かすことが困難であったと思われます。学生の学びがより良いものとなるよう授業内容を検討・工夫しながら教育活動を行っていきたいと考えます。

＊図 2「学校生活に関するアンケート」の設問内容については下記をご参照下さい。

（Ⅱ～Ⅷは、アンケート項目に対応する学校運営評価のカテゴリーを表す）

Ⅱ 教育課程・教育活動に関する項目

- 1 学生便覧に記載されているシラバス(授業内容)は、学生が授業内容を理解しやすく、授業内容と一致している。
- 2 授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善している。
- 3 実習目標に沿った病棟の選択及び、学習環境・指導体制が整っている。
- 4 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施している。
- 5 実習において、学生が関係したインシデント(ヒヤリ・ハット体験、事故報告)等を把握・分析していると同時に、改善策を講じている。
- 6 授業改善に努める目的で、学生による授業評価(講義・臨地実習)を実施している。
- 7 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。

Ⅲ 入学・卒業対策に関する項目

- 8 国試対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいる。
- 9 学生の進路決定率を高めるよう努めている。

Ⅳ 学生生活への支援に関する項目

- 10 学生の心身面での健康管理体制が整っている。
- 11 学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分応じている。
- 12 学生がボランティアなどの社会活動へ積極的に参加できるよう努めている。
- 13 教育・学習活動に関する情報提供を保護者等に行い、支援を得ることにつながっている。

Ⅴ 管理運営・財政に関する項目

- 14 災害など非常時の危機管理体制が整っている。
- 15 学校運営などに学生の意見が反映されている。

Ⅵ 施設設備に関する項目

- 16 校舎を定期的に点検し、適正な整備を行っている。
- 17 校舎はバリアフリーに配慮された構造になっている。
- 18 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。
- 19 学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられている。

Ⅶ 広報に関する項目

- 20 看護師養成所としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。